

● 演習ワークシート

所属施設：

氏名：

手順書作成シート

手順書：

【当該手順書にかかる特定行為の対象となる患者】

- 1.
- 2.
- 3.

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

以下のいずれにもあてはまる

-
-
-
-

病状の範囲外

あてはまらない項目が1つ
でもあれば、担当医師の
電話に直接連絡

病状の範囲内

【診療の補助の内容】

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

-
-
-
-
-

あてはまらない項目が1つでもあれば、下記の確認をして担当医に連絡

担当医師の電話に直接
連絡

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

【特定行為を行ったあとの医師・歯科医師に対する報告の方法】

- 1.
- 2.

●実習ワークシート

手順書チェックリスト

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- 医師がすでに診察していることが前提となっているか
- 誰が読んでも、同じイメージ（患者像）が浮かぶ表現となっているか
- 対象が広すぎないか（あてはまる患者が多いと安全にできない場合も含まれる可能性がある）
- 対象が狭すぎないか（安全にできる可能性が高くなるが、あてはまる患者がいなくなる可能性がある）

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 迅速に担当医に連絡して指示を仰ぐべき病態が含まれていないか（「臨時応急の手当」として、手順書からはずし、マニュアル等を別に作成したほうがよい場合もあり得る）
- 数値で細かく規定されすぎているか（研修を修了した看護師なので、質的判断の余地がある記載であることが望ましい。血液検査や X 線検査を含める場合は、最近それらの検査が行われていないということがあり得る）
- 包括的すぎないか（例えば、数値による規定が少なすぎるなど）
- 知りたい患者の病状が、観察項目（自覚症状、身体所見、検査所見など）と適切に関連付けられているか
- 「当該手順書に係る特定行為の対象となる患者」の記載と重複していないか

【診療の補助の内容】

- 特定行為の名称そのものが記載されているか
- （例えば、その施設で使用する物品や手技の手順など）手順書の補足が必要な場合、マニュアル等として別に整備されているか

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 全身症状、局所症状、器具の状態等について網羅されているか
- 「実施前」に確認すべきことが、「看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲」（上述）にもれなく含まれているか
- 「実施中」に確認すべきことと、「実施後」に確認すべきことの両方が含まれているか
- 「実施後」少し時間が経って（例えば 30 分ないし 1 時間）出現するような病態まで考慮しているか
- 確認事項が少なすぎないか（患者安全上、問題が起こるかもしれない）
- 確認事項が多すぎないか

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- 時間帯によって、連絡先が異なる場合がないか

【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

- 状況によって報告の方法やタイミングが異なる場合がないか

●実習ワークシート

所属施設：

氏名：

手順書作成シート

手順書：

【当該手順書にかかる特定行為の対象となる患者】

- 1.
- 2.
- 3.

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

以下のいずれにもあてはまる

-
-
-
-

病状の範囲外

あてはまらない項目が1つ
でもあれば、担当医師の
電話に直接連絡

病状の範囲内

【診療の補助の内容】

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

-
-
-
-
-

あてはまらない項目が1つでもあれば、下記の確認をして担当医に連絡

担当医師の電話に直接
連絡

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

【特定行為を行ったあとの医師・歯科医師に対する報告の方法】

- 1.
- 2.